

第 9 回国立高度医療研究センターの今後の在り方検討会意見書

一般社団法人日本医療機器産業連合会
会長 渡部眞也

2018 年 12 月 12 日に開催されます第 9 回国立高度医療研究センターの今後の在り方検討会に所用のため出席できませんので、以下の意見を提出致します。

これまで 9 回の検討会の中で NC の在り方について有識者により活発な議論が行われ、社会課題や新たな技術に対応して、今後とも世界トップクラスの研究開発、国民にとってより良い医療の提供、人材育成などを進めて行くための方向性が明快に示された事は極めて有意義と考えます。次の論点は、これをどう実行していくかです。

まず、疾患横断的で質の高いデータ基盤を構築し、有効に利活用していくことは最重要なテーマの一つであり、研究、安全性、公衆衛生、さらに医薬品や医療機器の開発、医療経済の向上など幅広い分野に出口があります。一方で、この実現に向けては、IT 投資や技術のみならず、国民の理解、法的整備、フォーマット統一や研究者のマインド変革など多くの要素が必要であり、NC 横断的な司令塔機能、いわゆる CIO や CDO(Chief Digital Officer)の強いリーダーシップのもとで推進することが必須と考えます。こうした役割の実効性を担保するためには、適切な組織体制や拠点化が前提となります。全国規模の CIN、コホート研究データ、がんゲノムデータベース、AI 技術、電子カルテ標準化など、NC が研究機関を繋ぐデータシェアリングの中核となるべく諸施策の具体化と推進を要望します。

次に、産学連携に関しては、NC が我が国で最も「先進的なオープンイノベーションの場」となることを期待します。イノベーションの出発点は医療現場にあり、そこに産業界の新技术やアイデア、人材、資金をダイナミックに組合せる事が、スピードの速い時代には特に重要です。米国の先端医療機関ではスタートアップ企業を含め世界中からイノベーションの芽を主体的に拾いあげ育てることも行っており、学ぶべき点が多くあります。産業界としても、「先進的なオープンイノベーションの場」の実現に向け、NC との連携を進化させていくことを前向きに捉えています。一方で、知財管理を含む研究管理については 6NC の機能を集約する事により、強化や効率化を図っていく余地があると考えます。

以上の観点で、組織体制については「現在の枠組みを維持し 6 法人の連携を強化する」だけでは不十分であり、さらに踏み込んだ施策を期待します。検討会で議論されたその他の改革案は、いずれも前述のデータ基盤構築、産学連携活性化に関し NC 横断的な司令塔の機能を効果的に実装しうると考えます。特に「NC の 1 法人化」と「研究開発法人の設立」の 2 案については実現に向けて幾つかの課題がありますが、中長期の視点でより包括的な議論をすべき案と考えます。今後の検討は別の機会に委ねることになりますが、本検討会の取纏めとして議論の進め方、日程や工程を方向付けることを要望します。

以上